

第4章 「建物事故予防ナレッジベース」のユーザビリティ向上 及び普及方策について

第2章、第3章の報告にあるとおり、日常災害の実態把握、事例収集を行い、知識ベースの機能およびシステム構成、ウェブサイトの仕様について検討を行ったのち、平成21年（2009年）8月より「建物事故予防ナレッジベース」のウェブサイト上での公開を開始した。

本章では、公開を開始した後、ウェブサイトを運用しつつ、「建物事故予防ナレッジベース」へ改良を加えた事項と、日常災害の防止の啓発、及び「建物事故予防ナレッジベース」の普及のための活動について報告する。4.1節では、事故事例の収集のみならず、工夫事例の収集を積極的に行うことを目的として、実務者を対象としたヒアリング調査を行った結果をまとめた。4.2節、4.3節では、ユーザビリティ（使いやすさ）の向上とウェブサイトの機能を充実させる改善点について記した。また、4.4節では、日常災害の防止の啓発、及び「建物事故予防ナレッジベース」の普及のための活動として開催されたシンポジウムについて概説した。

なお、充実したウェブサイト運用を目標として、今後も定期的な事故事例収集調査の実施と、そこで得られた事例を「建物事故予防ナレッジベース」に反映させることや、コンテンツの拡張、ウェブサイト機能の改良等を行っていく方針である。

4.1 工夫事例の収集

4.1.1 予備調査

社団法人 日本建築士事務所協会連合会に依頼し、各都道府県の建築士事務所に対して、建物周辺での日常事故を予防するために取っている対策や意識していることの有無を尋ねるアンケート調査を実施した。

アンケート配布数：138部（46都道府県（岐阜県を除く）×3部）

アンケート回収数：108部（回収率 78.3%）

調査票の内容については、巻末参考資料5を参照されたい。

結果：

- ・ 日常安全の観点で、何らかの対策や意識していることがあると回答した事務所
77（71.3%）

参考として、自由回答の例を以下に示す。

- ・ 10cm前後の中途半端な段差を極力なくす。

- ・ 建物と人の行き来のある通路の間に、植栽等を設けてタイル等の外壁の劣化による落下にそなえる。
- ・ 死角を減らす計画とする。
- ・ 顧客からのクレーム（日常事故を含む）については、設計スタッフにフィードバックして、会社全体として共有している。
- ・ すべりやすい床材等は使用しないなど、床等の材質に留意する。
- ・ 危険と思われるところに注意喚起を促すプレートを必ず提示する。
- ・ 床材の仕上滑りにくさと美観メンテナンスのバランスを充分考慮する。
- ・ 建物の出入り口に庇等の落下物を遮る要素を設置する。

4.1.2 工夫事例の収集

上記の調査結果より、実際の建物におけるより具体的な対策を聞き取ることができる設計者を抽出し、ヒアリング調査を行った。特に弱者等の利用が多いもの建物用途における事例を収集することとし、下記の5名の対象者を選定した。

設計者 A：学校建築の設計者

設計者 B：病院建築の設計者

設計者 C：病院建築の設計者

設計者 D：高齢者施設の設計者

設計者 E：高齢者施設の設計者

次ページに収集した工夫事例の一覧を示す。

No.	設計上の工夫	場所・部位	施設の用途	事故の種類	情報提供者
1	突き当りに開口部を設ける場合は、衝突防止のための手すりや格子などの防護柵、植栽などにより物理的に開口部に近づきにくくする。	廊下・通路	学校	ぶつかり	設計者 A
2	曲がり角や教室の出入口など、見通しが悪く出会いがしらの衝突事故が発生しやすい場所では、見通しを確保し余裕をもったスペースの計画とする。	廊下・通路	学校	ぶつかり	設計者 A
3	手洗い・流し等は廊下に面して配置されることが多いが、通行部分が濡れることのないように、アルコーブ状にする。	廊下・通路	学校	転倒	設計者 A
4	引き違い戸や引き違い窓における挟まれ事故を防止するため、扉と枠の間には衝撃吸収ゴム等を設置する。	引き戸(手動)	学校	はさまれ	設計者 A
5	天窓は、天窓の構造や設置状況等を把握した上で、周囲に防護柵を設置することや内側に落下防護ネットを設置すること等、安全な構造とする。	ベランダ・屋上	学校	墜落	設計者 A
6	柱は、衝突時の被害を最小限とするため、面取り処理やカバーの設置等の配慮をする。	室内	学校	ぶつかり	設計者 A
7	運動を行う室・空間の照明設備は、ボール等の衝突に対する破損防止措置を行う。	室内	学校	落下物	設計者 A
8	渡り廊下や駐輪場の屋根等は、容易に上ることができるような足がかりを設けない。	廊下・通路	学校	墜落	設計者 A
9	子供が多く利用する施設のため手すりは縦格のみとする。	ベランダ・屋上	病院	墜落	設計者 B
10	手すりの端部曲げとする。	廊下・通路	病院	ぶつかり	設計者 B
11	階段ノンスリップは段を明確にするものを設置する。	階段	病院	転落	設計者 B
12	子どもの転倒を想定し、柔らかい床材を採用する。	廊下・通路	病院	転倒	設計者 B
13	施設の出入り口は段差をなくし、それに伴い、雨仕舞いの工夫を行う。	廊下・通路	病院	転倒	設計者 B
14	こどもが立ち入るところでは掃き出し窓の開閉制限する(サッシ割りと管理面での工夫)。	窓	病院	墜落	設計者 B
15	手が触れるガラス面の端部には枠を設置する。	窓	病院	ぶつかり	設計者 B
16	こどもだけが利用する手すりは柔らかい材質にする。	廊下・通路	病院	ぶつかり	設計者 B
17	吹き抜け部には万が一墜落した場合に備え庇等を設け、最下階まで一気に落下することを防止する。	吹き抜け	病院	墜落	設計者 C
18	吹き抜けに面した手すりは手前に折り曲げ、子どもがよじ登ることを防止する。	吹き抜け	病院	墜落	設計者 C
19	出会い頭の衝突防止のため、躯体などで作られた階段の中壁は腰壁にするか視線の高さに開口を設ける。	階段	高齢者施設	ぶつかり	設計者 D
20	格子戸タイプのデザイン戸の場合、指をはさんでしまい怪我をすることがあるので、ガラスやアクリルなどを取り付ける。	引き戸(手動)	高齢者施設	はさまれ	設計者 D
21	廊下側に開いた扉にぶつかることがあるので、部屋の用途上支障がない限り、内開きにする。	廊下・通路	高齢者施設	ぶつかり	設計者 D
22	夜間、トイレへの歩行時に転倒することがあるので、足下灯を設けて、十分な明るさを確保する。	廊下・通路	高齢者施設	転倒	設計者 D
23	階段には万が一の転落時の障害を軽減するため、踊り場を設ける。	階段	高齢者施設	転落	設計者 E
24	階段には両側に手すりを設ける。	階段	高齢者施設	転落	設計者 E
25	開き戸の隣にカウンターを設けたが、その戸から出入りする人がその角に体をぶつけた。(失敗事例)	廊下・通路	病院	ぶつかり	設計者 C

表 4.1.1 収集した工事事例の一覧

4.2 ナレッジベースのシステム改善のためのユーザビリティ調査

「建物事故予防ナレッジベース」に関して、操作レベルの使いやすさ、分かりやすさを尋ねるユーザビリティ調査を行った。具体的には建物事故予防ナレッジベースにある「事故事例検索」「事故パターン検索」「関連情報検索」の3つの機能に対して、それぞれ検索操作のタスクを実行させ、使いやすさ、分かりやすさ、気付いたことなどを尋ねるものである。調査は建築関係者（建築士、研究員、建築系大学院生）を対象に対面調査として行った。

結果を以下に示す。

ユーザビリティ調査項目		Aさん		Bさん		Cさん		Dさん		Eさん	
	性別	女		男		女		男		男	
	職業	一級建築士		一級建築士		研究員		建築系大学院生		建築系大学院生	
事故事例検索	タスク1 事故事例検索	○	—	×	一覧表示ボタンを探せなかった	○	—	○	—	○	—
	タスク2 事故事例→事故パターンと事故予防の留意点の検索	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
	タスク3 事故予防留意点→関連情報の検索	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
	タスク4 事故事例検索の画面に戻れるか	○	—	×	トップページに戻れなかった	○	—	○	—	○	—
	出来なかったところ	タスク4を行う時、複数の別ウィンドウが開いてあったため、検索画面にうまく戻れなかった。		—		—		ウィンドウ開きすぎてどれがどれかわからない感じ。前のページに戻るのに時間がかかった		—	
	被験者の感想	開いているウィンドウが多すぎて分かりにくい。一覧表示のボタンが分かりにくい、気付きにくい		トップページに行っても別のウィンドウが開くため元に戻りづらい。一覧表示ボタンが気付きづらい		戻る⇒で戻りたいが、別ウィンドウが開くため戻れない。転倒と転落の違いが分かりにくい		きちんと分類されて調べやすい		事故事例を複数検索できるのが分からなかった。事故件数がかわるのが分かりづらい	
事故パターン検索	タスク5 事故パターンの検索	○	—	○	—	×	どの分類にあるのか分かりづらい。全部入ってみたいと分からない	×	フォルダの中に入れるのが分からなかった	○	ちょっと時間かかった
	タスク6 事故パターン→事故事例検索	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
	タスク7 事故パターン→関連情報検索 事故パターン画面に戻れるか	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
	出来なかったところ	—		—		—		—		—	
	被験者の感想	事故パターンのフォルダの中にまた何かがあるのが分からなかった。		自分の居場所が分かりづらい。検索している場面の前後が分かりづらい		ツリー構造が分かりづらい		文章がずらりと書いてあり、また似たようなものが出て分かりづらかった		事故パターンのアイコンが同じようなものが出て、分かりづらい。全部同じように見える	
関連情報検索	タスク8 関連情報検索	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
	出来なかったところ	—		—		—		—		—	
	被験者の感想	—		—		キーワード検索ボタンの工夫がいる		—		キーワード検索、フリーワード検索とチェックして検索部分を色などで区分した方がいいのでは。関連情報が論文ではなく、商品の詳細情報かと思われた。	
トップページ	被験者の感想	建物事故報告と事故予防に役に立つ事例報告の違いが一目で分かりづらい		—		イラスト付きで分かりやすい		全体的に分かりやすい印象が強い		—	

表 4.2.1 システム改善のためのユーザビリティ調査結果

以上の結果を取りまとめると、以下の改善ポイントとなる。

1. 検索する時複数の別ウィンドウが開き、検索しにくいこと
2. 事故パターンの構成が分かりづらいこと
3. トップページで事故報告と事例報告の違いが分かりにくいこと

4.3 システム改善

4.3.1 ユーザビリティ調査結果の反映

4.2 でのユーザビリティ調査の結果を反映し、以下のような改善を行った。

(1) 建物事故予防ナレッジベースのトップページデザインの変更

トップページで事故報告と事例報告の違いが分かりにくいとの意見に対応して、「一般向け」「実務者向け」の説明を付けた(図 4.3.1)。また文字のサイズが変更できるようにした。その他事故事例の関連写真を入れることで、ウェブサイトにも動きが出るようにした。



図 4.3.1 変更後の建物事故予防ナレッジベースのトップページ

(2) 検索画面デザインの変更

検索結果を表示するボタンが分かりづらいとの意見に対応して、ボタンの大きさと位置を変更した。



図 4.3.2 変更後の事件事例検索のページ

(3) 事故予防留意点画面のデザイン変更

建設段階の留意点、管理段階の留意点のタブを大きくすることで、検索しやすくした。



図 4.3.3 変更後の事故予防留意点のページ

(4) 事故パターンリストの変更

事故パターンの構成が分かりづらいとの意見に対応して、フォルダ部分とファイル部分に分け、選択したフォルダの一覧がアイコン付きで見えるようにした。



図 4.3.4 変更後の事故パターンリストのページ

(5) 各検索画面の遷移の変更：

複数の別ウィンドウが開き、検索しにくいとの意見に対応して、従前は、トップページから、事故パターン、事故事例検索、関連情報検索に行く際には別ウィンドウが開いていたが、これをとりやめた。

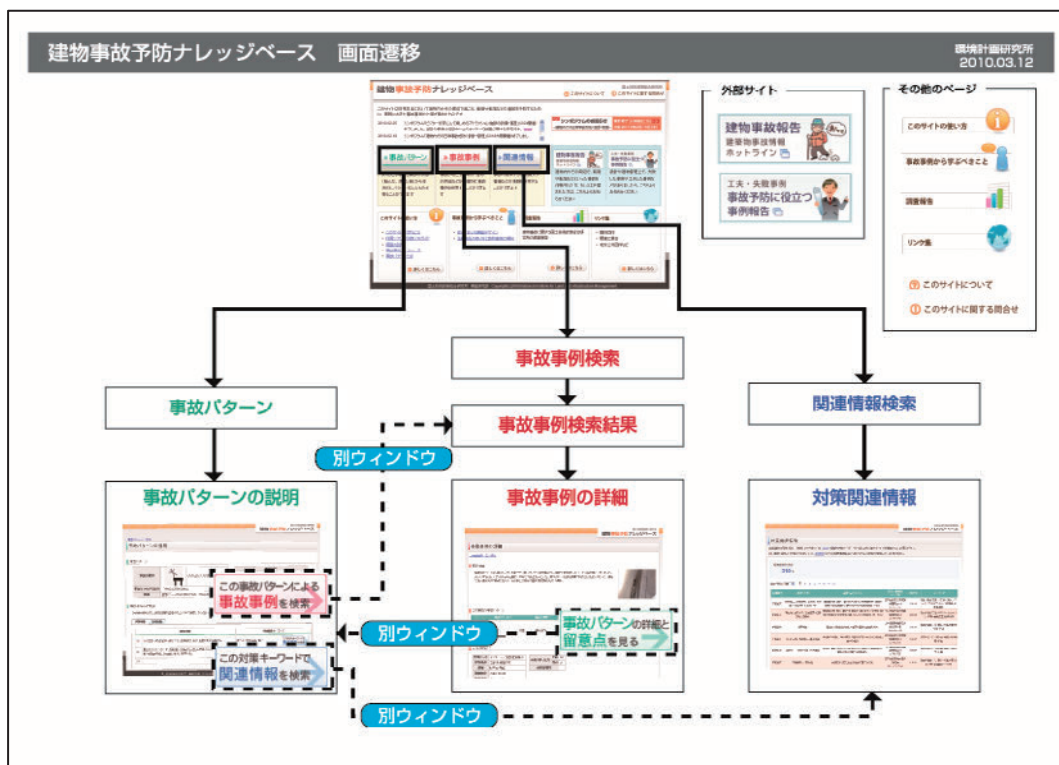


図 4.3.5 各検索画面の遷移の変更

4.3.2 建物事故予防ナレッジベースの各種機能等追加

(1) 住宅内事故情報のリンク機能

従前、「建物事故予防ナレッジベース」では住宅内での事故については対象外としていたが、日常事故に関する情報提供ウェブサイトとしての充実を図るため、住宅内の事故に関する外部情報について整理し掲載する。

掲載するウェブサイトは、住宅内での事故に関する情報を掲載しているウェブサイトのうち、情報の出典と運営組織が明確なものとした。以下にそのリストを示す。

住宅・家・家庭内の安全や事故防止対策などの記述があるサイト（一部PDFもあり） ・商品、製品、住宅の宣伝・広報をかねたものは除外しています。		
1	くらしの安全情報サイト(高齢者)	東京都 http://www.anzen.metro.tokyo.jp/senior_home_case.html
2	子ども部屋の危険	東京都 http://www.anzen.metro.tokyo.jp/house_kidsroom.html
3	家庭内の事故防止	大阪市立住まい情報センター http://www.sumai.city.osaka.jp/media/public/download/No362_anie41kisosisiki.pdf
4	大阪市子育て安心マンション認定制度整備基	大阪市立住まい情報センター http://www.sumai.city.osaka.jp/index/page/681850ad4f4748ed81bedfcc9cd5e444e/102/
5	住まいの安全・安心	(財)東京都防災・建築まちづくりセンター http://www.tokyo-machidukuri.or.jp/sumai/
6	住まいの情報発信局	(財)住宅産業研修財団 http://www.sumai-info.jp/anzen/index.html
7	高齢者住居安定化モデル事業	高齢者住宅財団 http://www.koujuuzai-model.jp/
8	行政関係(情報リンク)	(社)住宅生産団体連合会 http://www.iudanren.or.jp/admin/index.html#ad05
9	内装折戸の製品安全指針	(社)日本建材・住宅設備産業協会 http://www.kensankyo.org/kensan/report/oritoseihin-anzenshishin.pdf
10	住まい・まちづくりNET	(社)かながわ住まい・まちづくり協会 http://www.machikyo.or.jp/
11	開口部の安全設計指針	板硝子協会 http://www.itakyo.or.jp/kikaku/kinou1.html
12	住宅改修方法の基礎知識	保健福祉広報協会 http://www.hcrijapan.org/pdf/fukusikiki2_1.pdf
13	家庭内の事故の予防	全労災 http://www.zenrosai.coop/kurashi/kosodate/kosodate_katei.php
14	住宅内の事故予防	日本コープ共済生活共同組合連合会 http://coopkvosai.coop/inquirv/pdf/child_eniov_02.pdf
15	子どもの事故予防工学カウンスル	独立行政法人 産業技術総合研究所 http://www.cipec.jp/#
16	住まいの安全を考える	ミサワホーム http://www.misawa.co.jp/kodate/tokutvou/sumuhito/pop-up/safety/
17	あかちゃんのお部屋の安全チェック	ミサワホーム http://www.babycome.ne.jp/category/house/safe/index.html
18	住まいづくりのライブラリー	東リ http://www.toli.co.jp/m_library/safety_list.html
19	家庭内事故事例	株式会社イー・ケア・サポート http://www.ecare-support.com/e_hanasi.qol/e_home.html
20	事故を防ぐ住まいの工夫	介護NET http://www.care-guide.net/oukyuteate/jiko.html
21	インテリアの安全	Kagufan http://www.kagufan.com/ich012.htm
22	安全暮らしマニュアル	(不明) http://anzen.fn69.com/home/
23	暖房器具の安全対策	(不明) http://www.danbokjgu.com/tech/kiso_anzen.html

図 4.3.6 住宅内事故に関するウェブサイト

(2) 動画閲覧機能

国土技術政策総合研究所で実施したシンポジウム等について、適宜編集を行い、講演者毎の講演やパネルディスカッションを個々のコンテンツに分けて、ウェブサイト上で閲覧できるように機能を追加した（当日のプレゼンテーション資料やプログラム、配付資料等についても、ウェブサイト上で配布している）。

「建物事故予防ナレッジベース」上における動画のインデックスページの例を以下に示す。

建屋内での日常事故を防ぐ設計・管理 | 国土技術政策総合研究所 - Mozilla Firefox

file:///E:/symposium20100115/index.html

シンポジウム 建屋内での日常事故を防ぐ設計・管理

主催：国土交通省国土技術政策総合研究所 事務局：LLP人間環境デザイン研究所 後援：(財)日本建築防災協会 他

東京開催の
模様を配信中

社会の高齢化を反映し、建物の廊下で転ぶ、階段を転落するなど日常生活における建物内での事故は、住宅、非住宅建築物それぞれにおいて増加しており、統計によれば、非住宅建築物における死者数は、2015年には4000人を超え、その後、交通事故の死者数にも匹敵していくことが推定されています。また、このような事故を予防することを目的として、事故事例や対策に関連した情報などを集めた「建物事故予防ナレッジベース」は本年8月の公開以来3ヶ月で1万件以上アクセスがあり、この問題への社会の関心の高さが伺えます。

建物内での日常事故の実例の事例をみますと、利用者の不注意で生じているケースもありますが、建物の設計者、管理者の不注意による場合もあり、利用者、設計者、管理者が、それぞれ、事故の危険性を認識し、少し配慮をするだけで、多くの事故が予防できることがわかります。

本シンポジウムでは、人々の日常生活において、特に非住宅の建築物やその周辺で起きる事故を予防するため、建築設計者や建物管理者が留意すべき事項や安全対策の考え方について、専門の先生方から実例を交えて講演をしていただくとともに、関係者によるパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から事故を予防するための方策について議論します。

<プログラム>

1. [主旨説明](#) 国土技術政策総合研究所 高見真二
2. [基調講演](#) 東京理科大学工学部建築学科教授 直井英雄
3. [安全・安心な建築デザイン](#) 大阪工業大学工学部建築学科教授 吉村英祐
4. [建物事故をめぐる法的責任のあり方と裁判判例の傾向](#) 佐藤貴美法律事務所 佐藤貴美
5. [「建物事故予防ナレッジベース」について](#) 国土技術政策総合研究所 小野久美子
6. [関係者\(建築設計者、建物管理者、行政関係者等\)によるパネルディスカッション](#)
パネルディスカッション | [PART1](#) [PART2](#) [PART3](#)

<東京開催>

- ・日時: 2010年1月15日(金)13:30~16:30 (終了しました)
- ・会場: 弘済会館 会議室「萩」(東京都千代田区麹町5-1)

<大阪開催>

- ・日時: 2010年1月20日(水)13:30~16:30 (終了しました)
- ・会場: 大阪科学技術センター 中ホール(大阪市西区靱本町1-8-4)

※本ホームページでは東京で開催されたシンポジウムの模様を配信しています。

完了

図 4.3.7 シンポジウム報告インデックスページ (例)

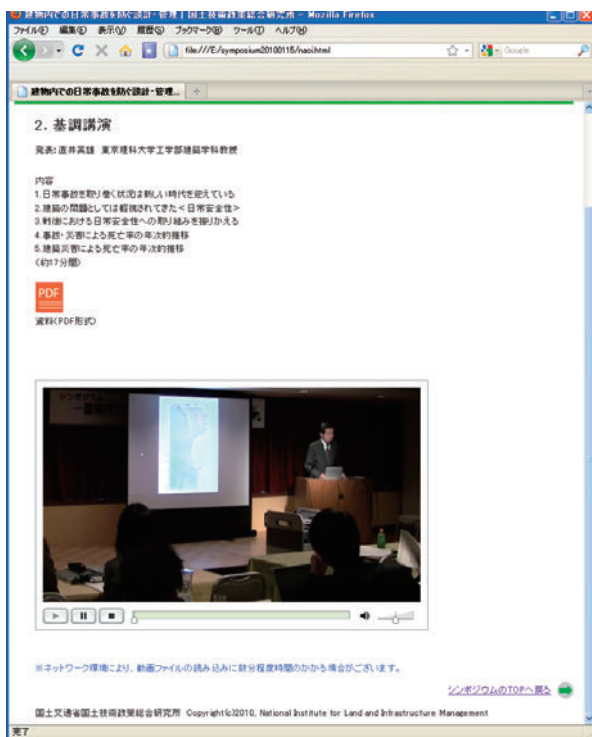


図 4.3.8 各講演者のページ (例)



図 4.3.9 パネルディスカッションのページ (3分割して収録)

(3) 新着情報の閲覧機能

事例や関連情報の追加・更新やお知らせなど、ウェブサイトに関する情報をトップページに掲載する機能を追加した。



図 4.3.10 新着情報欄（赤い枠内の部分）

(4) 投稿情報の管理機能

投稿された事故情報、工夫事例等を迅速かつ円滑に対応するための機能として、情報が投稿されたことを担当者にメール等で発信する機能、投稿された情報を担当者が読みとり、公開情報として掲載する機能を追加した。以下にそのシステム構成を示す。

■ 新着情報等の掲載機能

建物事故予防ナレッジベース

このサイトは日常生活において建築物やその周辺で起こる、騒音や振動などの事故を予防するため、本館にお住まいの方へお伝えするためのページです

- 2010.01.27 記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理
- 2010.01.27 記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理
- 2010.01.20 記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

建物事故報告
建物事故報告
建物事故報告

関連情報

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

SCMS 管理

ユーザーID: nimb
パスワード: nimb

OK キャンセル

ID	タイトル	更新者	更新日時	更新終了日	状態
00003	記事公開 記事公開 SCMS記事管理 SCMS記事管理	指定なし	2010-01-27 16:40	2010-01-27 16:40	公開
00002	記事公開 記事公開 SCMS記事管理 SCMS記事管理	指定なし	2010-01-27 16:20	2010-01-27 16:20	公開
00001	記事公開 記事公開 SCMS記事管理 SCMS記事管理	指定なし	2010-01-20 10:00	2010-01-20 10:00	公開

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理
記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

SCMS 管理

ユーザーID: nimb
パスワード: nimb

OK キャンセル

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

SCMS 管理

ユーザーID: nimb
パスワード: nimb

OK キャンセル

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

記事公開 | 記事公開 | SCMS記事管理 | SCMS記事管理

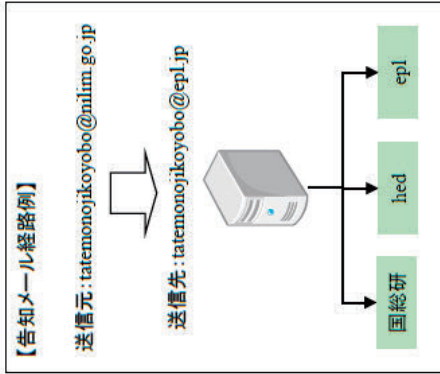
■ 投稿情報の管理機能

www.tatemonojikoyobo.nilim.go.jp

■ 新着情報の告知



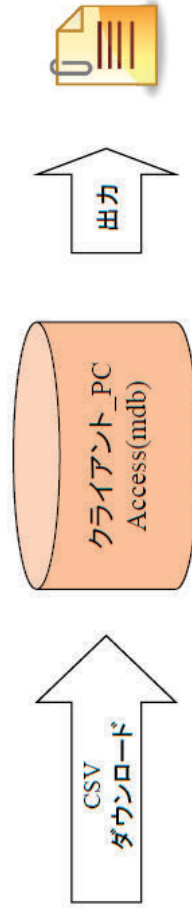
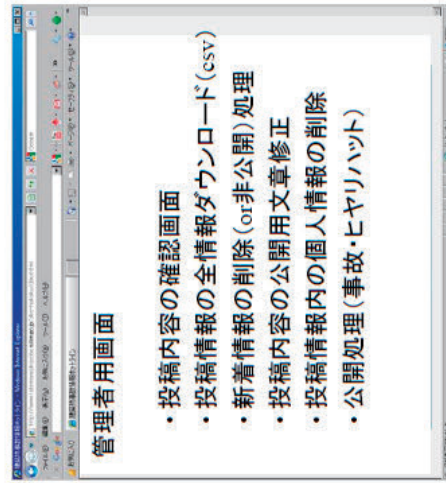
- ・事故・ヒヤリハット・事故予防情報が投稿されたら指定されたメールアドレスに「投稿メール」が届く



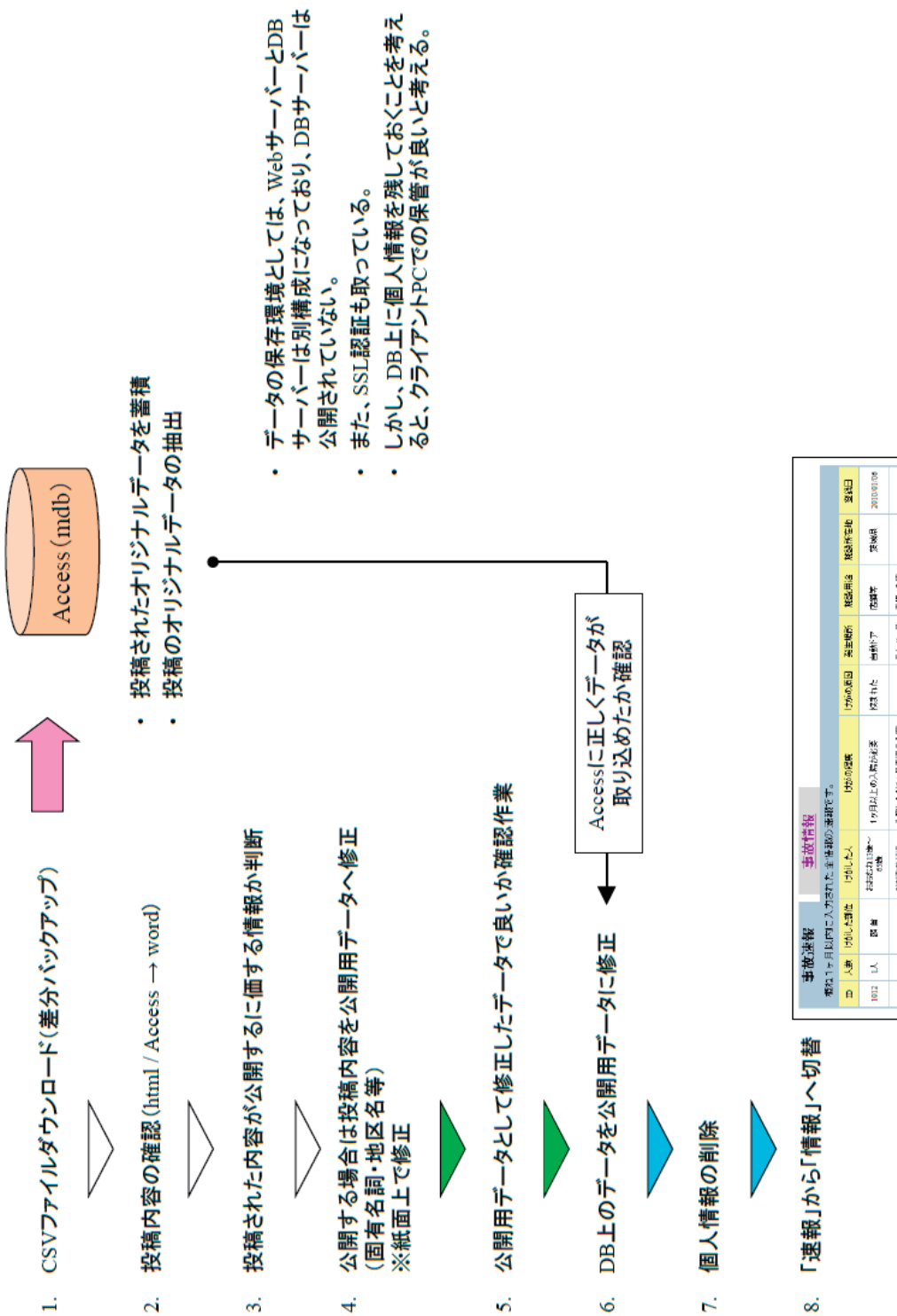
【 確認事項 】

- ・送信元のメールアドレス
- ・送信先のメールアドレス
(Iアドレスに送り、複数担当者へ転送)
- ・メールアドレスの設定・設定
(電算室へ確認必要?)

■ 投稿内容の確認 管理画面の設置



■ 公開までの流れ



- ・ データの保存環境としては、WebサーバーとDBサーバーは別構成になっており、DBサーバーは公開されていない。
- ・ また、SSL認証も取っている。
- ・ しかし、DB上に個人情報を残しておくことを考えると、クライアントPCでの保管が良いと考える。

事故速報		事故情報	
* 掲載ページは1ヶ月以内に入力された、未読情報の掲載です。			
ID	人種	性別	年齢
1072	白人	男性	19歳
住所		発生時刻	
1072		2018/01/09	

4.4 シンポジウムの開催

ナレッジベースの普及、広報を目的とし、設計者、管理者、建築教育関係者等を対象としたシンポジウムを開催した、シンポジウムは東京と大阪において、それぞれ開催した。その報告を以下に記す。

■シンポジウム 「建物内での日常事故を防ぐ設計・管理」 東京開催

開催日時：平成22年1月15日（金）13:30～16:30

会場：弘済会館 会議室「萩」（東京都千代田区）

参加者数：111名

<趣旨>

社会の高齢化を反映し、廊下で転倒する、階段から転落するなど、日常生活における建物内での事故（日常事故）が多発している。国土技術政策総合研究所では、特に非住宅の建物内で、建物利用者の普段の生活や行動において発生した事故を対象として、それらの安全対策技術の開発を目標として、H18年度よりプロジェクト研究として検討を進めてきた。その成果の一部として、日常事故事例や対策、関連情報等をまとめた「建物事故予防ナレッジベース」を、H21年8月よりウェブサイト上で公開している。本シンポジウムは、研究プロジェクトの成果及び「建物事故予防ナレッジベース」の普及を目的として、建築設計者や建物管理者が留意すべき事故や安全対策の考え方について、有識者専門家から事例を交えた講演と、関係者によるパネルディスカッションにより、それぞれの立場から事故を予防するための方策について議論により、日常事故防止について広く啓発するために実施したものである。

<プログラム>

1. 主旨説明：国土技術政策総合研究所より
2. 基調講演：東京理科大学教授 直井英雄
3. 安全・安心な建築デザイン：大阪工業大学教授 吉村英祐
4. 建物事故をめぐる法的責任のあり方と裁判判例の傾向：佐藤貴美法律事務所 佐藤貴美
5. 建物事故予防ナレッジベースについて：国土技術政策総合研究所
6. 関係者によるパネルディスカッション

パネリスト：直井英雄（前掲）、吉村英祐（前掲；パネルディスカッション進行）、佐藤貴美（前掲）、田嶋裕美（株式会社 建築プラス環境設計事務所）、碓氷辰男（東京建物株式会社）、高見真二（国土技術政策総合研究所）

<概況>

聴講者として、建築設計事務所、ハウスメーカー、ゼネコン、建材メーカー、設備機器メーカー、不動産・建物管理業、公共団体、公益法人など、建築に係る幅広い職種の方々に、お越しいただき、会場はほぼ満席の状態であった。

パネルディスカッションでは、パネリスト自身のお立場から日常安全に対する所感を述べていただいたあと、① ガラスを多用した「見えない建築」、② 設計施工管理サイドの法的責任の今後のあり方、③ 過失相殺のケース、④ 「建物事故予防ナレッジベース」に関する意見、等について議論がなされた。また会場からの質疑応答も行い、活発な意見交換が行われた。

最後に、吉村教授から「安全性とデザインは必ず両立する」、直井教授から「建築物がある限り、事故は起こり続けるであろう。しかしながら皆がそれぞれの立場で配慮していれば、理不尽な事故はなくなるはずである。」というお言葉をいただき、シンポジウムは無事終了した。



写真 4.4.1 パネルディスカッション（大阪）の様子



写真 4.4.2 会場（大阪）の風景

■シンポジウム ー建物内での日常事故を防ぐ設計・管理ー 大阪開催

開催日時：平成22年2月18日（木）13:30～16:30

会場：大阪府建築健保会館 6階ホール（大阪市中心区）

参加者数：93名

<趣旨>

社会の高齢化を反映し、廊下で転倒する、階段から転落するなど、日常生活における建物内での事故（日常事故）が多発している。国土技術政策総合研究所では、特に非住宅の建物内で、建物利用者の普段の生活や行動において発生した事故を対象として、それらの安全対策技術の開発を目標として、H18年度よりプロジェクト研究として検討を進めてきた。

その成果の一部として、日常事故事例や対策、関連情報等をまとめた「建物事故予防ナレッジベース」を、H21年8月よりウェブサイト上で公開している。

本シンポジウムは、研究プロジェクトの成果及び「建物事故予防ナレッジベース」の普及を目的として、建築設計者や建物管理者が留意すべき事故や安全対策の考え方について、有識者専門家から事例を交えた講演と、関係者によるパネルディスカッションにより、それぞれの立場から事故を予防するための方策について議論により、日常事故防止について広く啓発するために実施したものである。

<プログラム>

1. 開会挨拶：国土技術政策総合研究所
2. 主旨説明：国土技術政策総合研究所
3. 基調講演：東京理科大学教授 直井英雄
4. 安全・安心な建築デザイン：大阪工業大学教授 吉村英祐
5. 建物事故をめぐる法的責任のあり方と裁判判例の傾向：佐藤貴美法律事務所 佐藤貴美
6. 建物事故予防ナレッジベースについて：国土技術政策総合研究所
7. 関係者によるパネルディスカッション

パネリスト：直井英雄（前掲）、吉村英祐（前掲；パネルディスカッション進行）、佐藤貴美（前掲）、柳川陽文（株式会社 小河建築設計事務所）、佃敏晴（社団法人 大阪ビルメンテナンス協会）、入谷啓一（阪急阪神ビルマネジメント株式会社）、滑川秀明（大阪府住宅まちづくり部建築指導室）、高見真二（国土技術政策総合研究所）

<概況>

聴講者としては、東京会場と同様、建築設計事務所、ハウスメーカー、ゼネコン、建材メーカー、設備機器メーカー、不動産・建物管理業等、建築に関係する幅広い職種の方々に、お越しいただいた。また関西圏の地方自治体、地方整備局の方々の参加も目立った。

パネルディスカッションでは、まず、パネリスト自身のお立場から、日常安全に対する考え方や、取り組みについて述べていただいた。そこで、「建築基準法は最低基準であることを忘れず、小さなヒヤリ・ハット事例も教訓としながら設計を行うことが大切である」、「管理者として設計段階から関与するケースも多くあり、また商業施設などではオープン前に施設内を歩きまわり、入念なチェックを行う」、「まず、労働災害を減少させることが日常事故減少につながる」等のお話が伺えた。また、「建物事故予防ナレッジベース」に関する意見や活用方策についても議論された。最後に会場からの質疑応答も行い、活発な意見交換が行われ、シンポジウムは無事終了した。

なお、この時の様子は、「建物事故予防ナレッジベース」で記事としての掲載を予定している。



写真 4. 4. 3 パネルディスカッション（東京）の様子



写真 4. 4. 3 会場（東京）の風景